

特技懇誌ならでの視点で

巻・頭・言

令和6年度特許庁技術懇話会 副代表委員／編集委員長 中村 信也

令和6年度の特技懇副代表／編集委員長を務めております。中村信也と申します。今年度の特技懇誌は、4名の編集委員と、1名の広報幹事からなる6名の体制で進めて参ります。これから1年間、どうぞよろしくお願い致します。私自身、これまで読者側でありましたが、知人の記事を読む程度で特技懇誌を最後まで熟読したことはなく、今回特技懇誌を編集する側として立場が変わり、気が引き締まる思いです。

特技懇は会員相互の親睦と研さんならびに地位の向上をはかりあわせて特許行政に寄与し科学技術の振興をはかることを目的としているところ、その一翼を担うのが特技懇誌であります。コロナ禍による激動の変化により、働き方が変わって久しくなっておりますが、特許庁においては、テレワーク、オンライン環境が整備されていることも相まって、柔軟に審査、審判業務を行っている中、会員の皆様は様々な形で研さんを積んでいることかと存じます。昨年度の特技懇誌の特集「庁内WGの活動」でも取り組みが紹介されておりますが、各種セミナーを通じ、業務だけにとどまらず多彩なテーマが発信され、各自が関心のあるテーマを選択し、いつでもどこでもアクセスできる機会が増えています。そのような状況下において、特技懇編集委員会としては、特技懇誌ならでの視点で、特技懇誌を通じて皆様に有益な情報、若しくは興味を広げる機会を提供できればと考えております。その最たるものが、テーマに即して複数の記事を集約し、俯瞰的にまたは横断的に読むことができる「特集」であることは間違いのないところですし、「シリーズ」につきましてもテーマに沿った内容で毎号多様な知見が得られるものとなっております。また、最近の動

向、近況、経験したことを個別記事としてお伝えすることもできます。

本号の発行においては、現編集委員が着任してわずか1ヶ月余りで、特集の企画検討、事前調整、執筆の依頼と慌ただしく進めて参りました。短期間で多くの情報を収集し、一つのテーマに注力した「特集」として何を取り上げるか、現編集委員が悩みながらも意見を出し合い、打ち出したものとなっております。そして、本号の発行に際し、趣旨をご理解いただくと共に、ご多忙の中、執筆を快く引き受けていただいた執筆者の皆様には厚く御礼を申し上げます。また限られた活動時間内で、現体制における初号の発行に尽力いただいた現編集委員・広報幹事の皆様に感謝しております。

本号を発行する頃には、既に次号、次々号に向けての準備が進んでいるところとなります。こちらにつきましても、多くの方のご尽力をいただくこととなり、特技懇誌が皆様によって支えられていることを改めて実感しているところです。今後とも編集委員一同、この特技懇誌が皆様に楽しんでいただけるよう頑張参りますので、ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

読者の皆様におかれましても、本誌への寄稿について関心がございましたら、直接編集委員までお声掛けいただくか、巻末に記載しております連絡先までご連絡ください。あわせて本誌の内容に関するお問い合わせも受け付けております。また、昨年度に引き続いて記事のQRコードから「いいね！」を送ることができますので、皆様のレスポンスお待ちしております。(手順は目次の頁に記載しております。ログイン不要・匿名でOKです。)